

## 環境改善を実施した林内ホダ場に伏せ込んだホダ木から発生した子実体の放射性物質濃度の変化（1） —伏せ込みから約1年半後の結果—

### 1 はじめに

林内ホダ場における放射性物質の影響を明らかにするため、 $A_0$ 層除去（以下、「環境改善」）後のホダ場に放射性物質濃度（以下、「濃度」）の低いホダ木（以下、「代替ホダ木」）を伏せ込み、濃度の変化を調べています（林業技術情報No.54、57）。今回は、新たに環境改善を行った林内ホダ場（No.60）で、伏せ込みから約1年半後の子実体の濃度を測定しました。

### 2 調査方法と結果

【方法】平成24年11～12月に、一関市内のアカマツ林、スギ林、広葉樹林の3調査地に、 $A_0$ 層除去区と非除去区を設けました。同年12月に、代替ホダ木をヨロイ伏せで伏せ込みました。本数は除去区で75本、非除去区が225本です。平成26年5月に、各調査地で子実体をホダ木の上、下および横木（No.54）に分けて採取しました。次に乾燥、粉碎し、子実体重量の4.7倍量の水を加えて濃度を測定しました。また、ホダ場の地面に堆積した有機物層（ $A_0$ 層）の放射性物質量を算出し（No.64）、濃度との関係を調べました。

【結果】いずれの区の子実体からも、放射性物質が検出されました。しかし、濃度の平均値（図1）、最高値はいずれも100Bq/kg未満でした。調査地で濃度を比べると、スギ林でやや高い傾向を示しました。除去区と非除去区で比べると、スギ林とアカマツ林では、除去区が非除去区より低い傾向を示しました。子実体を採ったホダ木の部位別に比べると、除去区では部位間に差はありませんが、スギ林とアカマツ林の非除去区では、ホダ木

の下部から採った子実体で高い傾向がみられました。

地面の放射性物質量と、子実体の濃度との関係をみると、放射性物質量が多い場所で採った子実体ほど、濃度が高い傾向がみられました（図2）。このことは、 $A_0$ 層の放射性物質が子実体の濃度に影響する可能性を示します。



A<sub>0</sub>層除去  
1年半後の  
ホダ木と子実体  
(スギ林)

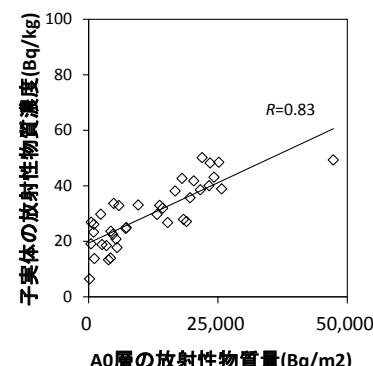


図2  
A<sub>0</sub>層の  
放射性物質量と  
子実体の濃度

### 3 成果の活用

環境改善が子実体の濃度の低減に効果があることがわかりました。濃度は今後変化する可能性があります。引き続き、代替ホダ木や子実体の放射性物質濃度を調査していく予定です。

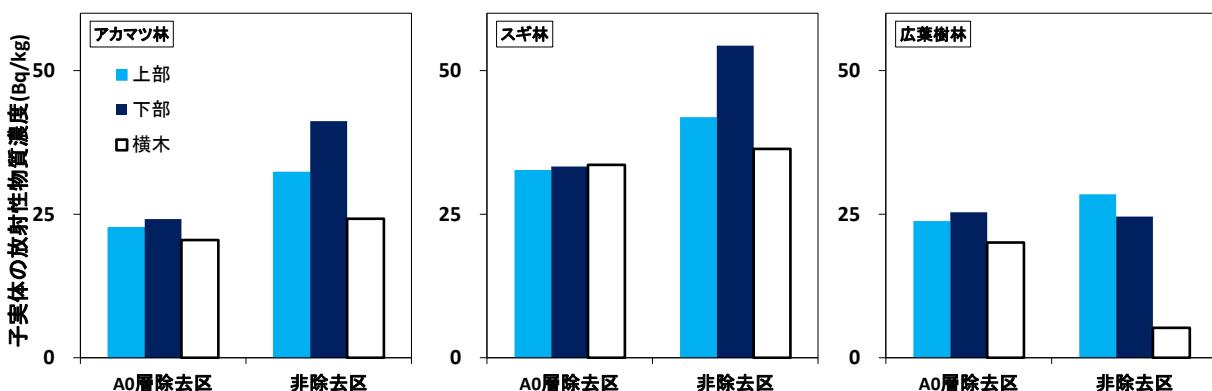


図1 伏せ込み1年半後の子実体の放射性物質濃度

（担当 研究部 主査専門研究員 成松 真樹）

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス <a href="http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/">http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/</a>	T E L 019-697-1536 F A X 019-697-1410
-----	--	--